

## 私学教育におけるスーパーグローバルハイスクール(SGH)の意義とその課題

— SGH によりどのような「資質や能力及び態度」が育つのか、  
平成 26・27 年度私学 SGH 指定校計 36 校へのアンケート調査から —

西 永 兼 康 長野清泉女学院中学・高等学校

### 1. はじめに

スーパーグローバルハイスクール(SGH)は 2014(平成 26)年 1 月に文部科学省が決定した新事業であり、目的として「実施要項」には高等学校における「グローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ること」とある。SGH が大きなインパクトをもって迎えられたことは、同月公募開始後の短い公募期間で全国 246 校が独自の「構想調書」をもって応募したことがその証左であろう。その後初年度 2014 年度指定校 56 校が決定され、1 校年間予算最大 1600 万円の 5 年継続想定事業は現在も継続され(2015 年予算は 1000 万円程度との事)、2016 年度には 3 年目の新規指定校を加える。また構想を評価された各校が「SGH アソシエイト」として謂わばお墨付きを得たことも注目された(ただし予算はつかない)。以下がその応募状況である。

表 1 SGH 応募状況およびその結果

年度	内訳	国立	公立	私立	計
2014	応募校数	10	117	119	246
	SGH 指定	4	34	18	56
	SGH アソシエイト	6	27	21	54
2015	応募校数	9	92	89	190
	SGH 指定	7	31	18	56
	SGH アソシエイト	1	24	30	55

「審査要項」によると指定には「国公私のバランスにも配慮する」とあり、結果として指定校 56 校のうち私学に両年とも 18 校が割り振られた。私学の応募数を母数とした採択率は 2014 年で 15.1%、15 年には 20.2%であり、相当な

狭き門である。ここでは紙幅上、指定校・構想名を割愛せざるを得ないが(文科省 HP を参照のこと)、実に多岐にわたる教育活動が繰り広げられ、SGH が私学の募集戦略の一端を担っていることは想像に難くなく(同じ系列校で複数校の指定が獲得されているのは偶然ではあるまい)、指定校の中で相当なウェイトを持っていることは間違いなかろう。しかし未だ開始され日も浅く、指定校からの情報発信はあるものの、研究状況としては未だ端緒についたばかりであり、斯様な私学に限っての研究の意味もあろう。

ところで「SGH で行う課題研究」は「総合的な学習の時間の目的及び趣旨に沿うものであり、国の支援を活用してより発展的な取組の開発及び実践に挑戦する」と規定され、この観点からの分析が可能ではとの仮説を立てた。そこで、『高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』(平成 21 年)に記載されている「育てようとする資質や能力及び態度」(以下「力」と記す、各名称は筆者による)が各校の「SGH で行う課題研究」で、どう育てられているのかを焦点化し各校「担当者」へのアンケート調査を行った。さらに他の質問事項を設定し、その上で 2015 年度新規指定校の仙台白百合学園中学・高等学校の報告会に出席し、また担当者から聞き取り調査を行うことによって、今回の調査の任を果たしたい。

### 2. アンケート調査の結果および分析

次頁の表 2 によって調査結果を示すが、全ての質問事項に対し記す余裕はなく、最低限の分析を記す。①SGH の活動で生徒の「力」が

表2 アンケート集計一覧(Q1~Q40)

アンケート送付数：36通 / 回答32通 (回答率88.9%) 自由記述は重複等で一部割愛、順不同。Q40は「4.おわりに」中に一部の掲載。		I 育っていると思う	II ややそう思う	III どちらとも言えない	IV どちらかというと思わない	V そう思わない	
<b>A 貴校のスーパーグローバルハイスクール (SGH) の課題研究において、次の1~17までの「資質や能力及び態度」が育っていると思いますか。</b>							
<b>①「学習方法に関すること」</b>							
Q 1	課題設定力	複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する	9 28.1%	17 53.1%	6 18.8%	0 0.0%	0 0.0%
Q 2	検証立案力	仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する	7 21.9%	19 59.4%	6 18.8%	0 0.0%	0 0.0%
Q 3	情報収集力	目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する	14 44.0%	14 43.8%	4 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
Q 4	情報分析力	必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・実地的に分析する	6 18.8%	18 56.3%	8 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
Q 5	意見形成力	複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する	15 46.9%	14 43.8%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%
Q 6	考察力	視点を定めて多様な情報から帰納的・演繹的に考察する	7 21.9%	18 56.3%	7 21.9%	0 0.0%	0 0.0%
Q 7	類推力	事象や事象間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える	6 18.8%	19 59.4%	7 21.9%	0 0.0%	0 0.0%
Q 8	論理的表現力	相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する	4 12.5%	25 78.1%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%
Q 9	学習内省力	学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとする	12 37.5%	12 37.5%	8 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
<b>②「自分自身に関すること」</b>							
Q 10	意思決定力	自らの行為について当事者意識と責任をもって意思決定する	9 28.1%	18 56.3%	4 12.5%	1 3.1%	0 0.0%
Q 11	計画実行力	目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に着実に行動する	8 25.0%	20 62.5%	4 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
Q 12	生活改善力	自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する	4 12.5%	17 53.1%	9 28.1%	2 6.3%	0 0.0%
Q 13	希望力	自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつ	16 50.0%	13 40.6%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%
<b>③「他者や社会とのかかわりに関すること」</b>							
Q 14	他者理解力	異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする	21 65.6%	10 31.3%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%
Q 15	協同解決力	互いを認め特徴を生かしあい、協同して課題を解決する	18 56.3%	14 43.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
Q 16	環境行動力	環境の保全について主体的、協同的に行動する	6 18.8%	18 56.3%	6 18.8%	1 3.1%	1 3.1%
Q 17	社会活動参加力	課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する	10 31.3%	14 43.8%	8 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
<b>B テーマについて</b>							
Q 18 SGHでの取り組み内容で重要なものとあなたが考えるその順位を、1から5までの番号でつけてください。 (内容の項目分けは、SGHのwebページによる、http://www.sghc.jp/。16項目中、1位：5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位：1点とし、点数化したもの) 1位：共生(文化・民族・外国人)(100点)、2位：国際関係(外交、安全保障、平和、貧困、国際協力、開発)(98点)、3位：持続可能な発展(ESD)・循環型社会(52点)、4位：文化・歴史・宗教・言語(39点)、5位：教育(34点)、6位：経済・ビジネス・産業・社会起業・CSR(34点)、7位：環境(29点)、8位：哲学・普遍的価値(法・人権)(26点)、9位：農業・食料(19点)、10位：資源・エネルギー(15点)、11位：女性の活躍(13点)、12位：医療・衛生・福祉(6点)、12位：地域(6点)、14位：防災・復興(5点)、15位：生物・生態系(3点)、16位：観光(1点)、17位：都市・生活環境(0点)。							
<b>C 進学に関する学力</b>							
Q 19	SGHの活動は、センター入試等の一般大学入試に合格するための学力の向上に結果として資すると思いますか。		2 6.3%	9 28.1%	15 46.9%	4 12.5%	2 6.3%
Q 20	SGHの活動は、AO入試・推薦入試に合格するために資すると思いますか。		22 68.8%	8 25.0%	2 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
<b>D SGHの活動・運営・申請について</b>							
Q 21	貴校のSGHの活動は、主にどの時間を用いていますか。(1つのみ回答) 1.総合的な学習の時間(19、59.4%)、2.教科の時間(8、25.0%)、3.放課後(4、12.5%)、3.その他(4、12.5%、昼休みと教科の時間)、4.従来の休業日を用いて(2、6.3%)、一つには限定できない。						
Q 22	貴校のSGHの活動では、教科との連携はうまくいっていると思いますか。		3 9.4%	13 40.6%	15 46.9%	1 3.1%	0 0.0%
Q 23	貴校のSGHの活動では、どの教科との連携が一番緊密ですか。(1つのみ回答) 1.外国語(英語)(15)、2.公民(9)、地理歴史(3)、情報(2)、理科(1)、その他(1)、国語(1)、数学(O)、保健体育(O)、芸術(O)、家庭(O)、地歴・理科・保健・英語・家庭が特に関係が深く1つのみの回答は無理である。						
Q 24	貴校のSGHの活動と、「総合的な学習の時間」との連携はうまくいっていると思いますか。		16 50.0%	12 37.5%	1 3.1%	3 9.4%	0 0.0%
Q 25	SGHの活動を進めるために、教育課程(カリキュラム)を変更しましたか。はい(14、43.8%)、いいえ(18、56.3%)、Global Issues:Global Studiesの新設、放課後1コマ新設、他教科減、イングリッシュプレゼンテーション新設、従来の課題研究の単年度の変更、学校設定科目、総合的な学習の時間の増加、情報・英語の一部を再編して編成の特例の指定。						
Q 26	貴校において、SGHに申請する際に、積極的リーダーシップを取った人(部署)を、あなたは誰(ど)だと考えますか。(複数回答可) 1.校長(20、62.5%)、2.教頭(14、43.8%)、3.その他(13、40.6%副校長)、「あなた」(4、12.5%)、教務主任(2、6.3%)、理事(2、6.3%)。						
Q 27	SGHの申請時に設定した、想定される採択期間終了時の5年後の「目標」を達成できると考えますか。		10 31.3%	15 46.9%	7 21.9%	0 0.0%	0 0.0%
Q 28	配分された予算は適正だと思いますか。		1 3.1%	6 18.8%	6 18.8%	13 40.6%	6 18.8%
Q 29	「帰国・外国人講師」と契約していますか。その具体的な職務は何ですか。 はい(13、40.6%)、いいえ(19、59.4%)。 課題研究指導、外国語教育、E L Tとして。						
Q 30	「海外交流アドバイザー」と契約していますか。その具体的な職務は何ですか。 はい(10、31.3%)、いいえ(22、68.8%)。 留学企画運営、海外引率、英語版HP作成。						
Q 31	「事務補助員」と契約していますか。その具体的な職務は何ですか。 はい(27、84.4%)、いいえ(5、15.6%)。 通訳翻訳業務、経理、アンケート集計、書類作成管理、イベント設置、関係機関連絡、情報発信、HP管理、報告会受付。						
Q 32	「管理機関」の運営指導委員会はSGHの活動に有意義だと思いますか。		7 21.9%	19 59.4%	4 12.5%	2 6.3%	0 0.0%
<b>E 学内外における理解について</b>							
Q 33	貴校のSGHの活動は、教員間で十分に理解されていると思いますか。		5 15.6%	13 40.6%	12 37.5%	2 6.3%	0 0.0%
Q 34	貴校のSGHの活動は、保護者間で十分に理解されていると思いますか。		2 6.3%	16 50.0%	12 37.5%	2 6.3%	0 0.0%
Q 35	貴校のSGHの活動は、生徒間で十分に理解されていると思いますか。		7 21.9%	17 53.1%	7 21.9%	1 3.1%	0 0.0%
<b>F 文部科学省の政策について</b>							
Q 36	SGHの活動で、文部科学省が考える「グローバルリーダー」が育つと思いますか。		9 28.1%	18 56.3%	4 12.5%	1 3.1%	0 0.0%
Q 37	SGHとして一つには具体化された、2013年6月に第二次安倍内閣が閣議決定した「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」という一連の政治プログラムを、よいものだと、思いますか。(無回答：2)		1 3.3%	8 26.7%	18 60.0%	2 6.7%	1 3.3%
<b>G 私学経営におけるSGH</b>							
Q 38	貴校でのSGHの活動は、貴校の建学の精神にふさわしいと思いますか。		24 75.0%	8 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
Q 39	SGHの「担当者」として、SGHの活動は私学教育にとって有意義だと思いますか。(無回答：1)		21 67.7%	9 29.0%	1 3.2%	0 0.0%	0 0.0%
<b>H 自由記述</b>							
Q 40	あなたはSGHに関して、どんな意義と課題があると考えますか、自由にお書きください。また、SGHに取り組む中で、教師として喜びを感じる事柄、また困難を覚えるような事柄がある場合には、具体的ににお書きください。さらに、本研究およびこのアンケートに対する感想がございましたら、お書きください。						

育っているかを調査のため A を設定したが 17 項目の平均で I 「育っていると思う」は 31.6%、II 「ややそう思う」で 51.5%あり、I II の合計は 83.1%となる。SGH によって「力」が育まれている結果にはなった。ただし半分以上の回答(51.5%)が II であり、質問自体の有位性についてはなお精査されねばなるまい。『学習指導要領解説』の「力」の項目をそのまま設問に使用したことの妥当性が問われよう。 **2**その上

で Q14 「他者理解力」(「異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする」と Q 15 「協同解決力」(「互いを認め特徴を生かしあい、協同して課題を解決する」)について。A で I の上位 2 位は両問であり、しかも I が II を上回わり、さらに III(「どちらとも言えない」)も極めて低い。有意性を問われるかもしれない A においても際立った結果である。つまり SGH の課題研究において「他者や社会とのかかわり

に関すること」、特に「異なる意見や他者の考えを受け入れ」「協同して課題を解決する」その力が強くなったことが窺える。[3]BのQ18。担当者が考える重要なテーマについては「共生」「国際関係」が上位を占め(100点・98点)、「経済・ビジネス…」は点数において落ち(34点)、担当者が考える「グローバル・リーダー」像にビジネスの場面を想定する向きは少ない。SGHの構想は2012年12月に発足した第二次安倍内閣が2013年6月に閣議決定した「日本再興戦略—JAPAN is BACK—」に端的に示され、グローバルビジネスでの場面で「世界で活躍できる人材」「世界と戦える人材」を育てることを目当てとしたが、必ずしも公募段階ではビジネスに特化した事業ではなく、そのことに符合していようか。[4]CのQ19・20からSGHの活動が必ずしも「一般大学入試に合格するための学力」に直結するとは考えられておらずⅢがトップの46.9%、「AO入試・推薦入試」には益するとの結果が出た(I「そう思う」68.8%、Ⅱ25.0%)。[5]Dの活動・運営に関して。Q21によると「総合的な学習の時間」を用いている学校が最も多く(60%)、次いで教科の時間もあり、昼休みを用いている学校も1校あった。Q24の「総合」との連携では高評価であったが(IⅡで87.5%)、Q22の教科との連携に関する数字は必ずしも高くはない(Ⅲ・Ⅳ「どちらかというと思うわない」で50.0%)。ただ最も緊密な関係をもつ教科は英語であり、そこで語学力を伸ばそうという意図が出ていようか。またQ25の教育課程の変更は半数が行い(43.8%)、学校設定科目を設置したり探究科を設置した学校もあった。[6]Q26では申請の状況を訊ねた。校長・教頭がリーダーシップをもって申請したことが窺える(複数回答、校長20校、教頭14校)。またSGHの担当者自らが先頭切ってという例も4校見受けられたが、逆に理事会主導が2校あった。[7]最も否定的な回答が多かったのが、Q28の予算についてであっ

た。Iは1校のみで、Ⅳが40.6%、Ⅴ「そう思わない」が18.8%もあった。1000万円規模の予算は使いきるのも大変ではあろうが、その一方、生徒の海外研修費用までは十分に賄えず、対象生徒を全校レベルに広げた場合、一人あたりの額はさらに減る。2年目以降の減額傾向は益々顕著であり、そのことが反映していよう。[8]Eの学内外での理解。生徒(Q35)と教師(Q33)では比較的ほぼ同程度に高く(生徒:I 21.9%・Ⅱ53.1%、教師:I 15.6%・Ⅳ40.6%)、保護者(Q34)の理解ではⅡが50%あるものの、Iは2校6.3%しかなかった。[9]Fの文科省の政策について。SGHで同省が考えるグローバル・リーダーが育つかに対して(Q36)、IⅡで84.4%に達した。Q37の安倍内閣の日本再興戦略に対する評価では、Iは1校5.3%、以下Ⅱ26.7%、Ⅲ60.0%、Ⅳ6.7%、Ⅴ3.3%で、活動それ自体への高い評価と比較すると、SGHを産み出した安倍政権の政策そのものへの評価は必ずしも高くない。[10]Gの私学経営(教育)。SGHの活動が建学の精神にふわしいか(Q38)、さらに「有意義」か(Q39)については、Q39でⅢが1校(3.2%)あった他は、それぞれIⅡの合計が100%に近い数値となり、実に高い評価となった。

### 3. 実地調査より—仙台白百合学園の実践

仙台白百合学園中学・高等学校の構想名は「グローバル・サーバント・リーダー(GSL)育成

写真1 高1生による課題解決型探究活動の実践報告、探究テーマ：「食品ロスの現状と貧困の子供たちを救うには」



プログラム～人を支え、人を活かし、人をつなげる～」である。この秀逸な概念である「GSL」とは「社会から忘れられがちな人々に共感し、他者に尽くす奉仕の心を持って、問題の解決のために行動できる人」と定義され、GSLに対し以下の4つの資質が規定されている。①意識・知識・理解(自国・他国文化の理解

と共感、グローバルな視野)、②技能・スキル(異言語文化価値との関係構築のためのコミュニケーション能力と協働する力)、③態度・姿勢・価値観(地球市民として地域から社会に働きかける行動力)、④精神・価値観・意思・行動(GSLを理解し、人を支え・人を活かし・人をつなげる力)(括弧内著者まとめ)。これらの資質を涵養する課題解決型探究活動として「環境・食・医療福祉・教育・企業」の5領域から探究テーマが選ばれ、初年度SGH対象高1生26名は複合的な7テーマを選定した。さらに「GSL20プロジェクト」と題し国内外の20人のGSLを「多角的に分析」し、さらには1年3月末には台湾研修が企画されている。また生徒・教師へのアセスメント評価を積極的に活用している。

筆者は2016年2月6日に行われた「第1回中間報告会」に参加した。生徒が行うプレゼンテーションや探究

写真2 分科会において報告されるSGH委員会 担当・鉢呂智子氏



活動に対して『学びの技』と“Presentations to Go”が参考になったと言うが、当日は、英語を交えた、ほとんど原稿なしでのプレゼンテーションを目にした。SGH委員会の担当・鉢呂智子氏は「生徒たちの成長は、あらゆる面で評価に値」と語られ「困難を予想して動かないよりも動くべき」と力強く述べられている。分科会において、SGHの活動によって生徒の何が変わったのかとの著者の質問に対し、氏が「何事にもノーと言わなくなった」と語られたのが印象的であった。生徒の主体性を伸ばす、その仕掛けがSGHにあると実感した。

#### 4. おわりに —SGHの意義とその課題

最後にQ40の自由記述を引用しつつ、SGHの意義と課題、および本研究の課題を述べる。

**A\_意義** 1) SGHの課題研究において「他者や社会とのかかわりに関すること」、特に「他者

理解力」および「協同解決力」を伸長させる。2) SGHの活動は生徒の主体性を育てる。3) SGHの活動での生徒の姿が教師の動機づけとなる。4) SGHの活動は「総合的な学習の時間」の積極的な評価につながる。

**B\_課題** 1)SGHの活動を評価する指標をどこに置くのかが大きな課題である。2)担当者の負担は小さくはなく、SGHが私学経営の売りとなっている現実の中で担当者はプレッシャーを覚えている。3)担当者はSGHの活動が学力試験に必ずしも直結しないと考えており、そこに多くの担当者のジレンマがある。4)文科省の予算は縮減傾向にあり、各校の構想が必ずしも実現できない現実がある。5)担当者が日々の業務に忙殺され、指定校の活動を交流する場がない。

**C\_本研究の課題** 1)アンケート項目として本研究で仮説を立てた「力」の項目ではない他の質問項目を探るべきではなかったか。2)SGHの目的は「グローバル・リーダー育成」であるが、本研究においてはリーダー像は必ずしも明確にはなっていない。なお牛渡[2014]は「市場」「競争」ではなく「人権」「共生」に軸を置くグローバル教育の重要性を指摘しており示唆的であろう。3)本研究の対象は私学36校であり、他国公立76校は対象外である。4)2014年度指定校と2015年度指定校とを一括して考察している。

**Q40 自由記述引用(番号は4による、なお体裁は整えている)**

①「SGHに取り組む中の喜びは、生徒が社会や外国の生徒とつながっていくのを実感する時に感じている」。②「生徒の目の色が変わり、失敗をおそれずに行動していく自信を身につけていく姿が見られることが喜びである」。③「教師としての喜び、何と言っても、生徒が成長する姿が見られるということが非常に嬉しい」。④「評価をしにくい部分も多く、数字として結果に出すことには苦労している」「…問題発見力、問題解決力、内省力、発信力がどのように育成できたかを、どのように評価するか、また、誰もが納得する具体的な成果物に結びつけることが難しい」。⑤「SGHの担当になったからといって他の業務が減ったわけではないので、大変忙しい」「私学であるため、SGHの取り組みが生き残り策に直結しており、大きなプレッシャーを感じている」「煩雑すぎて、また業務過多で、正直喜びを感じる事柄はない」「あらゆることが手探りの状態、未知の世界であるため、準備や折衝に相当な時間がとられる」「良いものを作っても、大学進学でよい結果を出さなければ募集に影響をおよぼす」。⑥「現行の大学入試制度の中で、SGH活動が大学入試に関して必ずしも有利に働かない」「このような活動を行っても大学入試の段階では、多くの生徒はペーパーテストとなるわけで、高3の活動のさせ方は、むずかしい」。⑦「文科省には…出すものは出してほしい」「SGHの取り組み年数が進むと同時に、展開規模が大きくなっているため、結局のところ学校の持ち出しが増えることになりかねない」と心配している。⑧「苦労をわかちあうための情報交換の機会があると良いなと思う」。

#### 参考文献

○石井英真、2014、特別企画SGHは高校教育に何をもちたするか、月刊高校教育、47巻8号、pp.42-45。○牛渡淳、2014、グローバル社会で求められる教師の資質・能力、教育展望、60号3巻、pp.34-38。○後藤芳文・伊藤史織・登本洋子、2014、学びの技14歳からの探究・論文・プレゼンテーション、玉川大学出版部。○松岡昇・三宅ひろ子、2014、Presentations to Go、センジャー・ラーニング。○SGHウェブサイト (<http://www.sghe.jp>) ○首相官邸ウェブサイト (<http://www.kantei.go.jp>) ○文部科学省ウェブサイト (<http://www.mext.go.jp>)

謝辞：アンケート作成に際しご助言を賜った当研究所研究員の山崎吉朗先生、ならびにご回答下さった各校SGH担当者の方々に感謝の辞を申し述べます。